くろゆり通信

第３４号　平成１８年５月発行
発 行 者　国土交通省中部地方整備局
天竜川上流河川事務所
小渋川砂防出張所
小渋川砂防安全協議会

「大鹿さくら祭り」開催される！

４月１５日（土）大鹿さくら祭りが盛大に行われました。
天候不順が続いたせいもあり、桜は３分咲きでしたが、「第２１代日本さくらのプリンセス」、「第５代大鹿さくらの女王」と中川村長との記念植樹もあり、県内外から大勢の観光客が訪れました。
「日本で最も美しい村」連合に登録されているこの大鹿村で見るさくらは、日本で最も美しいのではないでしょうか。

「さくらの女王」の皆さんと中川村長による記念植樹

【写真提供】大鹿村役場

「一口メモ」

「さくら祭り」が開催されていたちょうどその頃、天気は良いのになんとなく薄曇りの様な雰囲気、そうです「黄砂」の飛来です。遠く中国内陸部の砂漠地帯から飛んでくる黄砂は、風によって数千メートルの高度にまで巻き上げられ偏西風に乗って日本にやって来ます。黄砂現象は、自然現象であると理解されてきましたが、この頃はその頻度と被害が大きくなっており、森林減少、過放牧等による砂漠化といった人為的影響も大きく、大きな環境問題となっています。また、黄砂粒子を核とした雲の発生等を通して、地球全体の気候にも影響を及ぼしているようです。

「新小渋橋」開通！！

４月２６日（水）、かねてから建設中であった「新小渋橋」が開通しました。
当日は、田中康夫長野県知事を始め、多くの関係者と多くの村民の方々が新しい橋の開通を祝いました。
テープカットに始まり、「渡り初め」では、中峰の大久保さん御一家を先頭に、多くの方々が、さくらの散り始めた大西公園、整備の進む小渋川の流れを眺めながら、「新小渋橋」を往復しました。

田中知事と関係の皆さんによる
テープカット

関係の皆さんによる“くす玉割り”

親子３世代による渡り初め

「新小渋橋」はサビだらけ？

皆さんお気づきかも知れませんが、今回開通した「新小渋橋」の橋桁は、サビで赤茶色になっています。出来たてほやほやの橋にどうしてそんなにサビが発生しているのでしょうか、「そんな橋では困る」と怒らないで下さい。
「新小渋橋」で使用されている橋桁の鋼材は、「耐候性鋼材」という鋼材で出来ていて、サビが重要な役割を果たしているのです。
普通の鋼材の表面に発生するサビは、年月の経過につれて剥離し、再びサビが発生するという事を繰り返して少しずつ腐食して行きますが、この「耐候性鋼材」には、サビが表面から剥離しにくくなる合金が含まれているため、約１～５年程度の間でサビが安定して鋼材の表面を覆い、サビが塗装の役目を果たすことで、腐食の進行を少なくして行くのです。
大鹿村内では既にいくつかの橋がこの鋼材を使用していますが、このような鋼材を使用することで、橋の寿命を延ばし、塗装の塗り替えなどにかかる維持管理費も減らして行けるのです。

「新小渋橋」の全景

小渋川砂防出張所　新任係長の紹介

岡本係長の後任で来ました上山（うえやま）です。
出身は、名前が一番短い県庁所在地で知られている　「三重県津市」です。三重県と言うと、伊勢神宮、松阪牛（“坂”ではなく“阪”です。）、鈴鹿サーキットが思い浮かばれ、「津市」は聞いたことあるけど場所がわからない方が大半のようですね。
小渋川砂防出張所に配属され、初めての長野県、初めての出張所係長ということもあり、解らないことばかりで、事務所や出張所の方に色々教わりながら毎日を過ごしていますが、少しでも安心して過ごせる国土となるよう、微力ではありますが頑張って行きますので、よろしくお願い致します。

小渋川砂防出張所　【TEL】３９－２３０１
【FAX】３９－２４６０